

## 東京都公立幼稚園

調査対象：東京都公立幼稚園（配布188園 回収115園 回収率61.2%）

調査期間：2014年10-11月

調査方法：質問紙調査...東京都公立幼稚園各園に1部ずつ郵送にて配布・回収

調査内容：①回答者属性,②園について,③預かり保育について,  
④幼保連携について,⑤幼保一体化について

### 問1. アンケートの回答者についてお聞きします。

(1)このアンケートを記入している方は次のうちどなたですか。

	人数(人)	割合(%)
園長	67	58.3
副園長	32	27.8
主任	13	11.3
その他	3	2.6

(2)保育所と幼稚園での経験年数について教えてください。

幼稚園...平均29.6年 保育園...平均1.8年

	幼稚園(人)	保育園(人)
0年	0	21
1~9年	3	5
10~19年	6	0
20~29年	39	0
30~39年	49	1
40年以上	5	0
無回答	2	89

### 問2. 貴園の概要についてお聞きします。

(1)園が設置されている地域を教えてください。

市区町村	園数(園)	割合(%)
千代田区	5	4.3
中央区	10	8.7
港区	11	9.6
新宿区	7	6.1
文京区	8	7.0
台東区	9	7.8
墨田区	6	5.2
江東区	16	13.9
品川区	6	5.2
目黒区	1	0.9
世田谷区	5	4.3
渋谷区	3	2.6
中野区	2	1.7
豊島区	3	2.6
北区	2	1.7
荒川区	5	4.3
板橋区	2	1.7
練馬区	3	2.6
江戸川区	3	2.6
葛飾区	3	2.6
市部	4	3.5
無回答	1	0.9

(2)園の設置について当てはまるものに○をつけてください。

	園数(園)	割合(%)
公立幼稚園	114	99.1
その他	1	0.9

(3)創立年数を教えてください。

平均45.6年

(4)現在の園児数について教えてください。

年齢	平均人数(人)	平均クラス数(クラス)
----	---------	-------------

3歳児	11.3	0.6
4歳児	34.3	1.4
5歳児	36.4	1.4

問3. 貴園の預かり保育の現状についてお聞きします。

(1)貴園では預かり保育を実施していますか。

	園数(園)	割合(%)
実施している	54	47.0
実施していない	59	51.3
無回答	2	1.7

(2)どのような形態での預かり保育を実施していますか。

※預かり保育を実施している園（54園）のみ

i)預かり保育の対象を教えてください。

	園数(園)	割合(%)
在園児のみ	54	100.0
在園児以外の子どもも対象	0	0.0

ii)預かり保育の実施日について教えてください。（複数回答可）

	園数(園)	割合(%)
月	32	59.2
火	32	59.2
水	29	53.7
木	32	59.2
金	32	59.2
土	2	3.7
日	0	0.0
祝日	0	0.0
春・夏・冬の長期休業期間	20	37.0
その他	22	40.7

iii)預かり保育の平均利用人数と実施時間について教えてください。(実施時間は省略)

平均利用人数の平均(人)
--------------

早朝	6.9
夕方	31.6
日曜・祝日	0.0

iv)預かり保育の実施場所について教えてください。

	園数(園)	割合(%)
保育所の活動スペースと同じ場所	52	96.3
その他	1	1.9

v)預かり保育の担当者について教えてください。

	園数(園)	割合(%)
教育時間を担当する園の職員	21	38.9
預かり保育担当の職員	30	55.6
その他	2	3.7

vi)預かり保育の保育内容等について教えてください。

	園数(園)	割合(%)
担当者がその日毎に保育内容を決める	35	64.8
担当者と担任は子どもについて情報交換をしている	31	57.4
預かり保育独自のカリキュラムがある	19	35.2
園のカリキュラムと連続している	11	20.4
園の学年ごとに保育を行っている	7	13.0
園の学年に関係なく異年齢で保育を行っている	32	59.3
その他	2	3.7

(3)預かり保育について、今後の方向性として当てはまるものに○をつけてください。

	園数(園)	割合(%)
取り組む	38	33.0
取り組まない	14	12.2
わからない	34	29.6
その他	13	11.3
無回答	16	13.9

(4) (3)の理由として最も当てはまるものから順に番号を記入してください。

第1理由

(園)

	取り組む	取り組まない	分からない	その他	全体
行政の方針	17	13	29	5	64
子育て支援が充実する	11	0	1	3	15
保護者からの要請がある	5	0	0	0	5
地域社会の要請が強い	2	0	1	0	3
保育者の負担が大きい	0	0	1	1	2
経費の面で難しい	0	0	1	0	1
今のままで十分	0	0	0	1	1
その他	1	1	1	1	4

## 第2理由

(園)

	取り組む	取り組まない	分からない	その他	全体
保護者からの要請がある	12	0	1	3	16
行政の方針	10	0	3	2	15
経費の面で難しい	0	1	7	0	8
地域社会の要請が強い	6	0	0	0	6
保育者の負担が大きい	0	2	3	0	5
子育て支援が充実する	4	0	0	0	4
今のままで十分	1	0	1	0	2
施設が利用できる	1	0	1	0	2
カリキュラムの編成が難しい	0	1	0	0	1
安全性の基準が保障できない	0	0	1	0	1
子どもの負担が大きい	0	0	0	1	1
その他	0	0	0	1	1

## 第3理由

(園)

	取り組む	取り組まない	分からない	その他	全体
保護者からの要請がある	9	0	1	0	10

子育て支援が充実する	8	0	1	0	9
施設が利用できる	4	0	2	1	7
地域社会の要請が強い	5	0	0	0	5
行政の方針	3	0	1	1	5
保育者の負担が大きい	0	1	3	0	4
今のままで十分	0	2	2	0	4
経費の面で難しい	0	1	1	1	3
子どもの負担が大きい	1	0	1	0	2
安全性の基準が保障できない	0	0	1	0	1
その他	0	0	0	2	2

**問4. 貴園の幼保連携の現状についてお聞きします。**

(1) 保育園との連携はありますか。

	園数(園)	割合(%)
連携がある	90	78.3
連携がない	25	21.7

(2) (1)の理由をお書きください。(自由記述)

連携がある

- ・行政でも連携に力を入れているし、保育園当園で、やりたいという思いが一致したから。
- ・近隣に保育園があり、どちらも連携を望んでいる。
- ・同じ小学校に通う幼児が多く、小学校の行事などに共に参加するので
- ・同じ地域の子供同士の交流は、意義の大きいことだと考えるから
- ・園児同士の交流→多様な人とのかかわり
- ・職員間の研修会
- ・地域の幼児と交流
- ・教員と保育士との互いの学び
- ・同じ地域で生活している子供たち同士の交流を持つことで、互いに生活や遊びにおいて影響を受け合うなど、時に就学前の幼児に必要な経験を考えること。
- ・近隣の同じ小学校に入学する者同士、知り合っておくことは抵抗感を減らす。
- ・区教育委員会も幼保小中の連携を推進している。
- ・0～15歳までの育ちの連続性を意識した教育の重要性から区として幼保小中連携事業を進めている。
- ・近隣の保育園と交流することで、小学校に行ったときに顔見知りになれる安心感がある。人との関わりが増える。
- ・幼児の交流
- ・職員間の交流
- ・施設内の一室を保育所（分園）が使用している為
- ・同じ地域に住む子供たちである、小学校では一緒になるため
- ・交流（職員・幼児）
- ・近隣の公立保育所からは、幼稚園が併設している小学校に就学する園児が多く、1年生になったときに一緒にの学級になる可能性が高いこともあり、以前から就学前の交流をしていた。
- ・同じ地域に暮らす幼児同士の交流を求めて、また小学校に入学したときに顔見知りの友達がいたときにつながると思い交流を始めた。
- ・同地域の小学校へ進学する幼児が多い
- ・国としても就学前教育の充実うたっている。地域の子育て支援のセンター役割を担う責務があると考え。
- ・就学前の同じ幼児の保育・教育を実施する円として、保育の充実を図るため。また、大勢のこどもが会って一緒に遊ぶ機会を持つことで、小学校との円滑な接続をめざしたいため。
- ・保育内容の違いや共通点に気づきながら、相互に保育を見直し改善と充実につなげるため。また子供の生活にも広がりが出るため
- ・同じ地域に住み、就学以降でも関わるので、少しでも関わるができるように。
- ・それぞれの良さを知る。（施設・保育・etc）ためにも実際に行うことが大切。
- ・行事への参加
- ・施設分離型幼保一体施設なので、交流や合同の行事が充実している。
- ・区の政策として、重点を置いている。
- ・研究会などのご案内を出しています。幼保が共に学び合うため。
- ・地域の幼児教育施設として連携を図ることで、同じ小学校へ通う幼児が顔見知りになり、親しみをもてるようになったり、職員間の交流を図ることで、教材の幅が広がっている。
- ・幼保一元化施設なので。
- ・近隣の保育園と交流し、多様な活動を経験し、かかわりを広げるため
- ・保育士、幼稚園教諭が保育活動の意見交換を行い、相互理解を深め、幼児教育の充実をはかるため
- ・学校に行くと、同じ学年で一緒に生活するので、かかわりを増やしたいから。
- ・地域の未就学児を育てるうえで連携が必要小学校へのなめらかな接続につながる
- ・交流、給食（小学校）体験
- ・就学に（円滑な接続）大切だから
- ・区を幼保小中連携教育に力を入れている
- ・市の方針で幼稚園として活動することが義務付けられている
- ・保育活動の交流、夏季休業中のプールの貸し出し、近隣小学校の校庭、プール使用日での連携、交流
- ・地域の子供として顔見知りになり、親しむことが大切だと考えるから
- ・就学をスムーズにするために必要不可欠だから

連携がない

- ・日野市内での幼保交流はあるが、園単位ではないため。
- ・互いの運動会や卒園式に園長が出席したり、園だよりの交換をしたりしているが、子供同士の交流は本園の園児数が多いことや周辺に保育園が3園もあることなどの理由で難しい。
- ・近隣にない
- ・近隣に保育園がないため
- ・以前はあったとのことですが、実施日にインフルエンザのため中止になって以来、途絶えてしまったそうです。
- ・近隣にない
- ・現在のところまでは、必要性を強く感じる事がなかったため、今後は変わってくると思う。
- ・施設が離れており、具体的な交流がまだ難しい状況にある
- ・これから行う予定
- ・園児数が多いこと、保育所側の要望がないこと、など交流を考えたが時間の調整が難しかった。
- ・近所に保育園がないこと、小・中学校、長寿会等との交流が位置付いており、日程に余裕がないため。
- ・必要性は感じているが、連携まではいっていない。他機関との交流その他で時間がとれないため。
- ・下記の内容は実施している。  
幼稚園公開や区幼教で行う研修会への参加の呼びかけ。毎回20名～30名参加。
- ・保育園と地理的に遠いため

(3)連携をしている園にお聞きします。※連携をしている園（90園）のみ

i)連携をしている園は何園ですか。

	園数(園)	割合(%)
1園	58	64.4
2園	14	15.6
3園	6	6.7
4園以上	12	13.4

ii)連携をしている園との距離について当てはまるものに○をつけてください。

	園数(園)	割合(%)
歩いて行ける範囲	72	80.0
隣接している	9	10.0
バスや交通機関を利用	1	1.1
その他	7	7.8

iii)連携の頻度について当てはまるものに○または数字をご記入ください。

	園数(園)	割合(%)
毎日	5	5.6
週1,2回	1	1.1
月1,2回	5	5.6
月3,4回	1	1.1



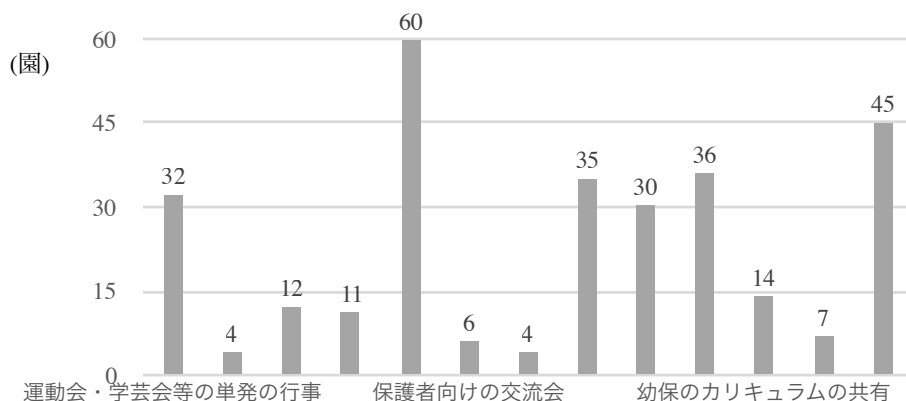
年1,2回	25	27.8
年3,4回	31	34.4
年5,6回	15	16.7
年7回以上	4	4.4

iv)連携の対象範囲について当てはまるものに○をつけてください。

	園数(園)	割合(%)
園全体	12	13.3
学年単位	62	68.9
クラス単位	10	11.1
一部子どものみ	1	1.1
その他	5	5.6

(4)連携についてお聞きします。

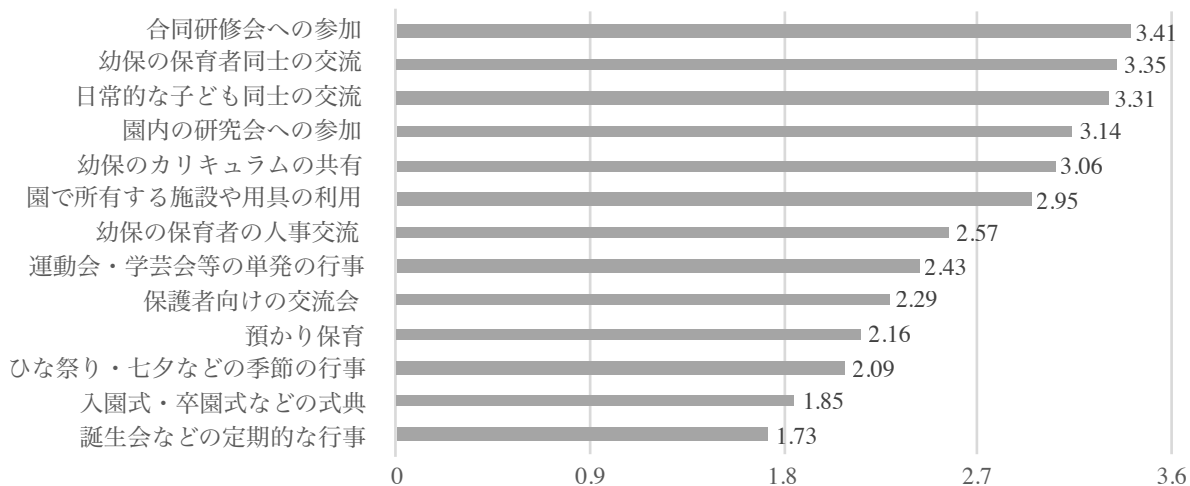
i)連携をしているものに○をつけてください。



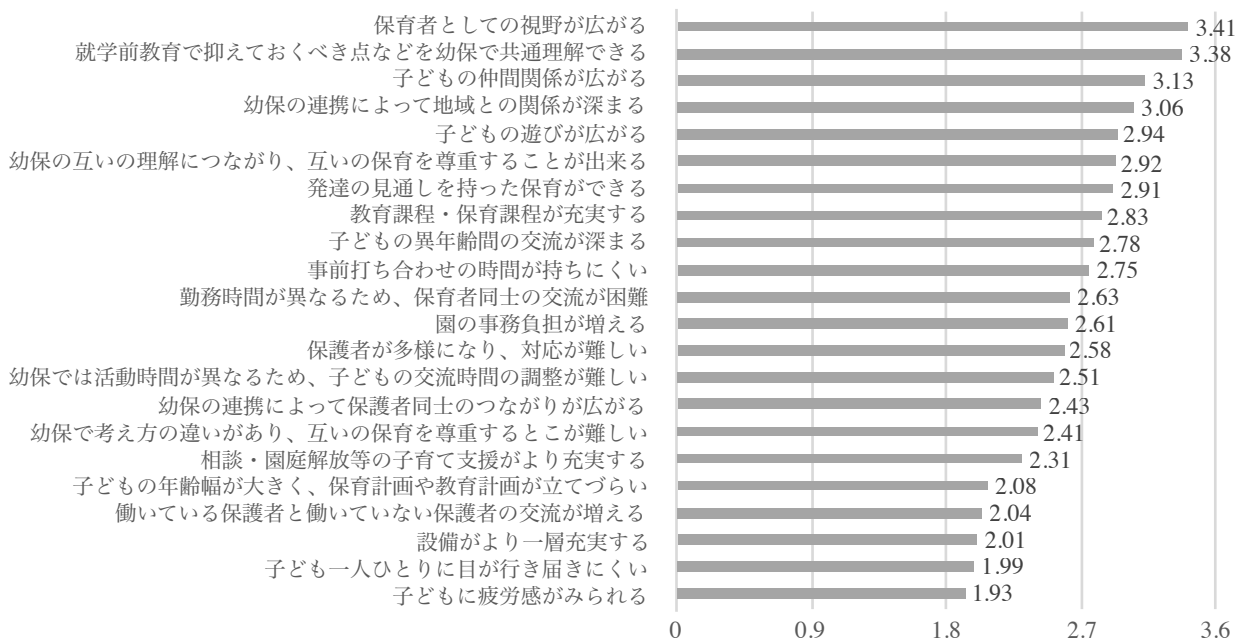
ii)連携をしている場合、両方の園が計画の段階から共同で行っている場合は「両」に、一方の園が中心に計画を立て、もう一方がそれに参加する形で行っている場合は、中心に計画を立てている方の園に○をつけてください。...省略

iii)連携をしている・していないにかかわらず、それぞれの項目について必要性を感じますか。

「1：全く必要性を感じない」「2：必要性を感じない」「3：必要性を感じる」「4：とても必要性を感じる」のうち最も当てはまる番号に○をつけてください。



(5)幼稚園・保育所との連携について貴園が感じていることについて、「1：全くそう思わない」「2：そう思わない」「3：そう思う」「4：とてもそう思う」のうち最も当てはまる番号に○をつけてください。



**問5. 今後の幼保一体化について貴園のお考えをお聞きします。**

(1)今後、幼保一体化をしていきたいと思いませんか

	園数(園)	割合(%)
一体化したい	4	3.5
既に検討している	6	5.2
検討していきたい	19	16.5
したくない	43	37.4

わからない	38	33.0
無回答	5	4.3

(2) (1)の理由として最も当てはまるものから順に選んで記号を記入してください。

第1理由

(園)

	したい	既に検討	検討したい	したくない	わからない	全体
行政の方針	1	2	4	11	26	46
保育・教育の充実	1	0	4	9	2	16
今のままで十分	0	0	0	9	2	11
地域社会の要請が強い	1	2	3	0	0	6
子どもの負担が大きい	0	1	0	4	1	6
子育て支援が充実する	0	0	3	0	0	3
保育者の負担が大きい	0	0	1	2	0	3
経費の面で難しい	0	0	0	1	0	1
カリキュラムの編成が難しい	0	0	0	0	1	1
大きい集団での育ちが重要	0	0	1	0	0	1
低年齢児とのふれ合いができる	0	0	1	0	0	1
その他	1	0	2	5	3	11

第2理由

(園)

	したい	既に検討	検討したい	したくない	わからない	全体
行政の方針	0	2	3	3	3	11
保育・教育の充実	0	2	4	3	2	11
保育者の負担が大きい	0	0	0	9	2	11
今のままで十分	0	0	0	6	3	9
カリキュラムの編成が難しい	0	0	1	6	1	8
子どもの負担が大きい	0	0	2	3	4	7
地域社会の要請が強い	0	0	1	1	1	4
低年齢児とのふれ合いができる	0	0	2	0	1	3
子育て支援が充実する	1	0	0	0	1	2
経費の面で難しい	0	0	0	1	1	2

大きい集団での育ちが重要	0	0	2	0	0	2
施設が利用できる	1	0	0	0	0	1
その他	0	0	1	4	2	7

### 第3理由

(園)

	したい	既に検討	検討したい	したくない	わからない	全体
今のままで十分	0	0	2	1	5	8
子どもの負担が大きい	0	0	2	6	0	8
保育者の負担が大きい	0	1	0	5	1	7
カリキュラムの編成が難しい	0	0	1	5	1	7
保育・教育の充実	1	1	1	0	2	6
経費の面で難しい	0	0	0	3	1	4
子育て支援が充実する	1	0	1	0	0	3
行政の方針	0	0	1	2	0	3
低年齢児とのふれ合いができる	0	0	2	0	0	2
地域社会の要請が強い	0	0	1	0	0	1
安全性の基準が保障できない	0	0	0	1	0	1
大きい集団での育ちが重要	0	0	0	1	0	1
その他	0	0	2	3	3	8

### 問6. 幼保の連携や一体化に関して、日頃の保育からお考えになっていることをご自由にご記入ください。

- ・ 幼保が互いに保育を知り合い尊重しあい、教育課程の充実をはかることは重要だと考える。しかし、一体化してからそれを行っていくとさまざまな違和感がお互いに生まれマイナスも多い。社会のニーズは分かるが、まずは幼保の連携を充実していきたい。
- ・ 地域の子供たちが、親の就労にかかわらず、共に育つ、という意味で、幼保の連携、一体化は大切であると考えている。しかし、一体化となると、施設面、教員、保育士の身分、給与の違いなど、クリアしなくてはならない課題も多い。認定こども園を増やすとなると、定員の中で、非就労世帯が入りづらい状況になることもなり、幼稚園として、存在する必要性も感じている。
- ・ すべての子供に質の高い幼児教育を提供する必要があると考える。そのためには、幼保の連携を進めるべきと思う。連携により、互いに学びあい、視野を広げることができる。また、子供たちにとっても就学に向け、友達関係が広がり、不安が和らぐというメリットがある。幼保一体化は難しいと思う。様々な課題がある。こども園（幼保連携）化については、幼稚園・保育園のよさを生かしながら、とにかく「質の高い幼児教育を提供すること」を第一に考え、進めていくことが大事であると思う。
- ・ その必要性も重要性も十分感じており、子育て支援、就学前教育においては、考えていかなければならないと思う。し

かし、現状からむりやり一体化は、子供にも保護者にも園の職員にも無理が生じる。施設・設備・人員配置など十分に整えて進めていくべきであると考えます。

- ・大人の都合でできた施設だと思えます。生活時間のリズムの異なる子どもが、一つの学級で暮らすことは、双方の子にとって不幸です。
- ・本区では幼保だけでなく、小学校も含めた連絡会や研修会があり、幼児同士の交流だけではなく、教師、保育士が互いに研鑽しあうことができ、必要なところでの幼児同士の遊びを直した関わり合いがされているので、自然な連携が図れている。それぞれの特性を生かし互いに保育の充実を図っているため、幼保一体化は必要ないと感じる。
- ・今、みんなの関心の中心である「認定こども園」の開設のねらいが「各地域の幼児教育の負の維持向上」を聞き納得できたし、今までも国公立幼稚園はそうであったと思う。やっと「負」ということが言われるようになったが、基本自治体はなかなか負まで考えて開設するのは厳しいのが現状と思う。幼稚園、幼保、こども園、どの形であろうと、目指すところは子供たちの最善の利点であるので、現場で力を尽くすだけである。
- ・一昨年まで幼保連携型の認定こども園にいた、大きい集団で育つ良さとマイナス面の両方があると思われる。長時間、短時間の両方の子供がいることで、生活が複雑になるので、子供への負担が大きい。両方の子供たちをつなぐ役目も保育者にも負担がかかる。幼稚園、保育園それぞれがそれぞれの施設で生活する中でできるところで交流を図っていけばいい気がする。区の方針では今後、認定こども園は増やさない方針である。
- ・保育の中での交流（幼児同士）を機会に、互いの特性（幼稚園の文化、保育園の文化）を見ることができ、幼児にとっても教員にとっても刺激がある。互いの良さを認め、取り入れることで生活が豊かになるメリットがある。しかし、同時に文化や生活時間、カリキュラムの違いが壁となり、交流そのものが成立しないこともある。理解し合うことが第一歩では。
- ・幼保の連携は、子供同士にとっては同じ地域に暮らすもの同士で顔見知りになる、という大きなメリットがあると思えます。子供同士が顔見知りになると、街で出会ったこども同士の関わりを通して、幼稚園と保育所の保護者が互いに親しみを感じる一助になっています。教員にとっては、保育所と交流することで「幼稚園教育」ということを改めて、客観的に考える機会となっています。また同じ年齢の子供への指導について、幼保の教員保育士が子供の姿を直して学ぶ機会にできる、と考えています。
- ・認定こども園がスタートしているところでは、担当の歩み寄りが難しいと聞きます。教師同士がどのような姿勢をもって、行っていったらいいのか、考えてしまいます。幼児教育を学んだ時は同じでも、歩む過程でTの考え方、方向性が違うのでしょうか。
- ・社会の流れは幼保一体化であり、ニーズもあると考える。しかし、江東区のこととして考えると、また地域の特色を考えると、その場にあった対応をするのが望ましいと思っている。必要な子育て支援を子供中心に（保護者中心にだけでなく）考えていきたいし、行政にも伝えていき、必要があれば意欲をもって進めていきたい。
- ・就学前教育の充実のためには、大勢の子供同士がかかわる機会の大切さを感じている（単学級のため互いの刺激となる）。教職員同士が保育を見合い、学び合うことは大変意義がある。ただし、長時間保育を実施するためには施設も狭く、限られた教職員での対応も難しい。幼稚園での教育と同様にはならない。
- ・時代の移りとともに、社会の様相も変わり、今は保護者のニーズが子供を長時間預かることにあるようです。そのニーズに対応し、幼児教育の質を落とさず、保育を展開するためには、幼保要支援児教育のための人的・物的整備とカリキュラムの検討、そして幼保が幼児教育の融合体として共に活躍しようという新しい文化の創造が重要と考えています。
- ・「子供のため」の政策になっているのか、その狙いを忘れずに行っていきたい。大切だとわかっていてもそこに互恵性があるのか振り返り、見直すことも必要かと思う。
- ・幼保の連携は必要。就学前に他の集団や他者との関わりを広げることは重要である。一体化については、その地域でのば実情により、様々な形態があつてよいと思うし、柔軟に対応できればよい。
- ・公立での幼保一体化は公立幼稚園の存続に大きな影響です。財政が苦しい区・住民の幼児教育理解のレベルが低い区では、親にとって便利な方向に流れており、内容が心配です。
- ・幼稚園と保育所の文化が違いすぎるので、それぞれの教育の質を保つことが難しくなると思う。
- ・教員の負担が大きくなり、教育の質が保てなくなる地域の保護者の需要が感じられない（幼稚園と保育園が求められている）
- ・子供の、子供らしい育ちの保障を求めたい。あまりに大人の都合で幼児教育に要求するものが多くなりすぎていると思う。父、母支援の充実を。お金はばらまきでの支援は有効ではないです。
- ・保育のプロ、教育のプロ同士だったら、垣根を越えて取り組むことができるはずだと思います。難しいことだとも思いますが、一步一步前進していけたらと思っています。

- ・幼保一体化は、どのような形態で行うかによって、その中身が大きく違ってくると思う。同年齢の幼児に同じクオリティの教育を受けさせたいという考え方は重要だが教育以外に必要な視点があると思う。一体化すればよいのではなく、幼保それぞれの良さを生かし連携することがよいのではないかと思う。
- ・保護者のニーズだけでなく、子供の発達の間から教育を主として考えていきたい。行政の方針や予算、人事等現場をよく知ってほしいと考える。
- ・保育園の「保育に欠ける」という部分を子供園化の中で、どのようにカバーしていくのか、見通しや方針がないと、子供にとっても、保護者にとっても、負担が大きいのではないかと思えます。
- ・子供園、保育園、幼稚園、移行期の保育園、幼稚園とそれぞれで対応することが多く、また、細かく対応しきれないのでは...と不安を感じることが多いです。
- ・幼保の連携は、就学前教育の充実という観点から重要であり、地域の子供同士の交流を含め、保育者の交流をすることによって、理解を深めていきたい。
- ・一体化については、行政によっては、子供からの視点により、保護者のニーズに重点をおくあまり、子供の身体面、精神面での負担が大きくなっていると思われるケースが増えているように思う。
- ・保育の質や充実がしっかり図られる一体化であればよいと思うが、現状では施設面、人材面から難しいと思う。効率の幼稚園の質の高さを生かした一体化を進めていければと思う。
- ・目黒区の方向性として、効率は幼稚園型の認定こども園にすると打ち出されている。準備段階として、中・長時間の預かり保育に区内保育園から保育士が異動してきたが、考え方やシステムの違いになじめなかった経緯がある。また開園した子供園では、短時間児の保護者と中・長時間児の保護者の交流や親子活動の難しさが出ている。幼保の連携はとても重要で必要なことと思うが、安易な一体化は子供たちに負担がかかるのではと考えている。両方の長所が生かされるような一体化が進んでいくとよい。
- ・幼保は連携していく必要があるが、一体化していなくてもよい。
- ・保護者や地域のニーズが多様であるのと同時に、施設の形態も様々でいいと思う。本園の保護者は、「保護者とともに進める教育」に賛同して入園してきている。「幼保一体化」にすると、その良さが失われるのでは不安を示している保護者もいる。今のところ、区の方針でその動きはないが、新制度になると、いずれはそうなるのかと心配している。いろいろな選択肢があることが、安心して子育てをすることにつながると思う。
- ・幼保の連携はとても意義があると実感して言います。管理職同士で月1集まり交流の大まかな打ち合わせをし、担任レベルで交流の打ち合わせを進めている。日程の調整は難しいが、担任のやっつけよう（やることに意義がある）という気持ちがあると、調整も可能になる。何より、保育士との交流で、教員の視野も広がる。しかし一体化となると、設備のこと、園の存続のことなど多くの問題があり、公立幼稚園としては区の政策に任せることしかできない状況で、教員も先行きの見通しが持てないのは不安である。
- ・それぞれの良さを生かした保育の充実をめざし、質の低下といわれたいことが大切である。職員間で幼児の育ちを共通にし、教育編成を行うことの必要性。
- ・女性の社会進出のために、保育の充実が必要だが、保育が子どものためという意義が、保育が子どものためと言う意識が薄れていることに不安を感じる。
- ・教育・保育の充実のためにも幼保の連携は大切です。
- ・幼保お互いの保育を学びあい、連携していくことが必要と感じる。公立の幼稚園でも免許を持っていない教員が免許を取り、これからの変化に対応する準備を具体的に始める必要があると思う。
- ・連携は必要であるし、子供たちのメリットはあると思う。しかし、一体化のメリットの主役は？難しい部分だと思えます。
- ・社会の要請や行政の方針として、幼保の連携はますます必要になると思います。ただ子供たちの保育の充実と生活を大切にしてほしいと思います。
- ・連携や交流は必要であるが、生活の仕方が違うので、一体化は必要ないと思う。中心となる時間とともに遊ぶ時間を持ち、朝、夕方はそれぞれの場でよい。
- ・保育園・幼稚園・こども園 それぞれ家庭・保護者の実情に合わせて選択できることが望ましいと思う。
- ・幼保の連携は大いに図るべきだと考えます。就学前教育を連携の中で、ともに充実させていくことが大切だと思います。幼保一体化に関してはカリキュラム編成や職員の配置、予算等を考えると難しさを感じます。
- ・少子化、核家族等の社会の状況を受け、幼児のコミュニケーション能力の低下、社会性の欠如等の課題は大きい。その課題克服のために幼保連携は必要であると考えます。一体化は国や、自治体の考えが大きいと思うが、これも公立幼稚園園児数減少の現実、待機児童対策等からこども園化として幼稚園が幼児教育を行っていかなくてはならないと考えている。

- ・幼稚園、保育園、それぞれに役割や期待されているものがあるので現行のままでもよいと思われる部分もある。しかし、同じ地域にある幼稚園保育園の子供たちが就学後に顔を合わせ共に生活していくことを考えたときに、それぞれの文化を共有し教師も子供も学んでいくことが今後大切になっていくと思われる。また、コアの部分は3歳児以上の幼稚園での内容を中心に、その前後は預かりの機能を生かした保育園での生活を中心に...とダブルスクールの考え方で行っていくことも考慮していく。
- ・もともと幼稚園として、また保育園としてあったところを統合して幼保一体の施設にすることは、それまでに各々の縁が培ってきたこと、思いなどがあり、一つの施設にして、保育の分担、または分業をしようと、簡単には割り切れないことがあります。作るなら1から幼保一体化を目指した施設を作るほうが良いです。
- ・幼保の連携は、就学前教育の充実や接続の点から、非常に大切であると考えている。一体化に関しては、公立なので行政の方針に沿ってよい方向に考え、対応したい。
- ・少子化や女性の社会での貢献を促すためにも、幼保一体化の流れは進むと思われるが、幼稚園の標準教育時間での集団教育を望んでいる保護者も少なくない。全ての子供にとって最善の利益となるようしくみが必要作りが必要だと思われる。現時点では教員と保育士の文化の違いや垣根は大きい。スタート時点から一体化施設で働く職員は意識も高いと思われるが...
- ・教育内容を互いに学びあい、保育園も学校教育として...というところまで引き上げていくのはとてもいいことだと思うが一体化することは、用途や役割が違ったり施設の面から難しいので一体化には賛成できない。保護者がニーズに合わせて選択をしていけばよいと思う。
- ・保育士と幼稚園教諭の考え方が違うことが多く、難しそう。
- ・本区では、公立幼稚園を閉園していくため、幼保園について考えられません。残念です。
- ・社会状況の流れから、一体化が増えることは避けられないと思うが、保育の質を低下させずに、子供たちの園生活の充実を図っているように努力していきたい。
- ・子供の育ちを保障し、教育内容を充実させるために、幼保が連携することは有意義であると考えている。
- ・一体化については、教育面、子供の生活を考えると、いい体制とするには時間がかかると思う。(保育者の考え方、目指すものを一つにしていくのが難しい。生活時間が違う子供たちが同じ施設の中で生活することの教育内容、気持ちの在り方(育ち)の難しさ)
- ・本園は200人弱の園で、特に保育所と一体化する必要は感じられない。ただし、保護者のニーズは「預かり」であるので、対応はしていくことが大事である。「教育」を中心にして「保育」をプラスすることで、質の向上を図っていくほうがよい。
- ・千代田区の場合、園によって形態がさまざまに異なるため、共通理解が難しい
- ・生活に時間差が生じるため、遊びのながれが作り出せない幼児に対する援助の難しさがあるのではないかと。幼保の遊び、生活への援助に対する価値観の違いを、すり合わせていく難しさを感じる。(保育園研修を通して感じた)
- ・幼稚園としての文化、保育園としての文化には独特のものがあると感じる。(当たり前と思っていることが違ったり...) 保育園のほうが幼稚園より時間や場所が制限されることが多いと思う。幼稚園は時間や場に関しては自由度が高いと感じている。
- ・幼稚園、保育園それぞれの良さを活かすためには幼保一体化は難しい問題が山積みだと感じている。
- ・地域によって区内でもニーズが異なっている。その地域に応じた対応をしていく必要があると思うが、サービスが向上すると働かなくても子育て期間をゆったりと過ごしていた母親までもが働き始める実態がある。経済的効果はあると思うが現在の幼稚園のスタイルで子育てを楽しんでいる母子の姿もあるので全面一体化により、すべてが保育サービスに依託されてしまうことに疑問がある。
- ・幼稚園も保育園も互いに忙しいため、行政が中心として動かないと、なかなか前に進まない。近くの保育園にアプローチしてきたが、忙しいとのことでなかなか交流が実現しなかったが、行政主導で今年度から研修会、話し合いの機会が設けられたら、少しずつだが話が進みはじめる。
- ・就労している保護者にとって、様々な形態の幼児教育施設が選択できることが望ましい。研修会では保育士の学びたい意欲の高さを感じている。熱心で真剣であり、幼稚園の教育を実践につなげたい必要感があるのだろう。
- ・幼児教育の充実という考え方は悪くはないと思いますが、”子どもがどう生活したいか”を中心に考えると、幼保連携が一体化ではなく、もっと他の方法があるように思う。※アンケート、答えにくく思いました。もう少し実態を踏まえて作成されるとよいと思います。
- ・長時間児と短時間児と混合にし、同じように保育を行うことは可能ではありますが、本園は並列型の一体施設なので、幼稚園クラス(短)、保育園クラス(長)に分かれてクラス編成を行っている。一人ひとりの生活に応じて、無理な

く園生活が遅れることが一番大切だと考えている。

- ・ 保育所、幼稚園の保育、教育のそれぞれのよさを生かしあえたらと思うが、現実に保育所と幼稚園の先生方の考え方が異なることが多いと聞く。保育、勤務体制、処遇について、保育所、幼稚園の違いがあ幼保の一体化については、相互理解をするのが難しい。
- ・ 今まで培ってきた幼保の互いの保育・教育の違いは交流を通して、はっきりわかる。互いの文化を超えた幼保一体化を進める難しさとしかし、ニーズにこたえてやっていく必要性も感じている。
- ・ 行政はハード面ばかり整えようとしているが、実際に働く保育者の負担はどんどん増えていっている。数値だけ見るのではなく（例）待機児童0など）、保育が本当に充実しているかを見ていってほしい。本当に連携することが子どもたちのためになるのか考えてほしい。
- ・ 保護者のニーズに合った施設が存在することが重要。必要に応じて選べるように。長時間保育が子どもの幸せにつながるのか、親子の愛着形成を築く時期を大切にしたい。
- ・ 就学前教育として、互いの違いを理解し、よりよい保育の充実を図っていくために必要だと思う。
- ・ 交流することについては、メリット面も多く、賛成です。互いに負担とならないよう「日常」を大切に交流するよう心掛けています。一体化については、理念はわかりますが、そのための条件整備ができていないと実態のないものになりかねません。保護者の利便性のみならず、幼児への負担を明らかにし、解消できていることが前提だと考えます。
- ・ 相互理解を本当に行うのは難しいと考える。待遇面や勤務体制の違いが、様々な面に影響しているのではないかと感じる。
- ・ 連携については、教員の考えや見通しに大きく左右されると考える。どうやればいいかわからない、何をすればいいかわからないと若手教員は思うとを感じる。意義を理解して子どもの育ちのために、取り組んでいきたいと思う。
- ・ 現在一体化施設（公立公営）におりますが、シフトの問題、施設の問題に課題があります。幼教保育士とティームティーチング（2人担任制）の形態で、互いを尊重しあい、いい人間関係が今は築かれてきていると思いますが、預かりも担任他が入るため、勤務体制が厳しいです。
- ・ （2）の（1）にも書いたように幼稚園と保育園で今まで築いてきた文化が異なるので一体化は難しいと思う。しかし、両者とも就学前の子どもたちが生活したり遊んだりする場ではあるので。
- ・ 本区の効率幼稚園・保育園では、まだ一体化の動きがないため、どうなるのかは全くわからない。ただ、公立幼稚園の存続が危ぶまれている今、幼稚園教育の内容を残していくためには、一体化もやむを得ないと感じている。一体化施設の先駆的な園（他区）の話を見ると、マイナス面や難しさばかりの印象を受けるが、行うからには、いい方方向に展開していけるよう、努力や工夫が必要だと思う。